

令和4年9月 月例記者会見（令和4年9月8日）市長原稿

皆さま方には、平素より市政運営にご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。
それでは、9月月例記者会見の資料についてご説明申し上げます。

資料No.1 をご覧ください。

静岡県ファルマバレープロジェクトとの連携強化を図るため、公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレーセンターへ、令和4年10月1日から令和6年3月31日までの間、裾野市職員1人を派遣します。裾野市では、県が推進するファルマバレープロジェクトと連携することで、次世代産業の発展と関連する企業の立地誘導を積極的に推進していきます。

資料No.2 をご覧ください。

敬老事業一環として、老人週間中である9月16日（金）に100歳長寿者への訪問をします。

対象は、今年度に百歳を迎える高齢者14名のうち、在宅で生活し、市長の訪問を希望した方5名を予定しています。

訪問する際には、直接、お祝いの言葉と記念品を贈ります。

ぜひとも取材をよろしくお願ひいたします。

富士山すその阿波おどりとはじまりの森のチラシをご覧ください。

富士山すその阿波おどりとはじまりの森について、イベントの概要がまとまりましたので紹介いたします。

10月9日（日）に裾野市役所前駐車場において、「富士山すその阿波おどりとはじまりの森」を開催します。

例年ですと、裾野駅前周辺を、20以上の連が鉦や笛、太鼓のリズムに合わせて踊って流す、当市の夏の夜を彩る風物詩であります。本年は、昼間に市役所庁舎前駐車場にステージを設け、見て、踊って、体験する、ワークショップ的な要素を盛り込んだ、新たなイベントといたしました。

オール裾野による合同連として、阿波踊りの魅力を味わっていただくという、新たな挑戦でもあります。

あわ踊りの出番は11時と13時、15時の3回を予定しております。また、あわ踊り以外にも楽しいステージイベントを計画しています。

今回は阿波おどりに加え、「はじまりの森」という出店団体の協力を得ながら、買い物や体験を楽しめる約50のブースが出店し、お祭りを盛り上げます。

例年のように商店街を踊って流す、おなじみの方法ではありませんが、阿波おどりの楽しさや魅力をパワフルにお伝えできる、「来てよかった」と思えるイベントになるよう、実行委員会の皆様が頑張っておりますので、ぜひとも取材をよろしくお願ひいたします。

資料No.4 をご覧ください。

この度、「株式会社ミダックホールディングス」と災害復旧に関する協定を結びます。

この災害協定を結ぶことで、今後、市内で地震などの大規模災害が発生し、災害により急激に排出される多量のごみ、特に、建物の倒壊や損壊による金属くず、木くずなどの処理を、円滑に進めることが出来ることを期待します。

「株式会社ミダックホールディングス」とは、美化センターが稼働出来なくなった場合、焼却ごみの受入れを行ってもらう委託を、平成 30 年度から毎年度契約しており、令和元年度には、実際に、5.93 t の焼却ごみを受入れてもらった実績もあります。

「株式会社ミダックホールディングス」との災害復旧に関する協定書の締結に伴う調印式は、今月末、9 月 29 日（木）市役所 3 階 市長応接室で 13 時 30 分から行います。

SDCC 構想の終了と、SDCC コンソーシアムの終了について説明します。

SDCC 構想はスーパーシティを見据えたスマートシティを実現するための構想として策定し、2020 年 3 月 23 日に発表しました。策定から 2 年間に於いて、SDCC コンソーシアム（87 の会員事業者様）や SDCC 構想に賛同していただいた皆さんと 43 の実証実験などを実施してまいりました。他方、「スマートシティの実現」を目的に ICT 技術の実証を進めることは、先進的である反面、市民生活に直接繋げることが難しく、市民の皆様には浸透しにくかった、という課題がありました。

また、SDCC 構想策定当時とは、市の置かれた状況も大きく変化し、加えて SDCC 構想による近隣市町と比較した優位性が薄れてきたことから、SDCC コンソーシアム会員各位へ SDCC 構想を具現化する取り組みの継続を説明することも難しい状況となりました。

現在、当市は「日本一市民目線の市役所」というミッションを掲げています。スマートシティやスーパーシティといった大きな構想を目指すのではなく、原点に立ち返り、生活に身近な地域の課題一つ一つを解決していくことこそが、市民に求められていると考えています。

そこでこの度、現時点で裾野市がスーパーシティやスマートシティを目指すものではないことなども鑑み、本日をもって SDCC 構想を終了することといたしました。

先ほどお話ししましたとおり、SDCC 構想を終了するからといって、デジタル化や、ウーブン・シティとの連携、岩波駅の周辺整備事業を止めるわけではありません。市民目線で、デジタル技術を最大限活用しながら、市民生活を豊かにする取り組みを推進してまいります。

具体的には、「デジタル目安箱」「飛び出す市長室」などの市民広聴の充実により市民ニーズを特定することや、庁内の人材を育成し、市民サービスの改善や業務改善を図ること、民間事業者等と連携して地域や市民の課題を解決する取り組みなどを進めてまいります。

なお、一部誤解が生じているようですので、トヨタ自動車株式会社様が手掛けるウーブン・シティとの関係について補足させていただきます。

ウーブン・シティはトヨタが自己資金・自己所有の土地で進める実証実験の街であり、市が独自にスマートシティを目指すという主旨であった SDCC 構想とは直接的な関係はございません。

ウーブン・シティは 2024 年から 2025 年の一部開所に向けて引き続き建設が進められる

と聞いておりますし、今後とも連携を図ってまいります。また、ウーブン・シティの開所を見越した、市の岩波駅周辺整備事業についても継続していきます。誤解のないよう、どうぞよろしくお願いいたします。

資料No.6 をご覧ください。

裾野市は、MS&ADインシュアランス グループ「あいおいニッセイ同和損害保険株式会社」様がサービスを行っている「罹災証明書の案内および申請に関するサポート」を導入する協議が整いましたので、本日、覚書を締結し運用を開始いたします。

この「罹災証明の案内および申請に関するサポート」は、市内で大規模な水害が発生した際に、あいおい様と火災保険契約を結ぶ家屋が被災された場合に、当市に罹災証明書を申請する際の手続きの案内や、申請のサポートを行うものです。合わせて、あいおい様において被災の状況把握のためドローンを飛ばした際にその映像を当市に提供していただけるとのことです。万が一被災をされた場合、市民は不安と戸惑いで混乱すると思われます、このような取り組みをしていただけることにより、早期の生活の再建が期待できます。何より大規模な災害が起こらないのが望ましいことではありますが、災害が起きてしまったときに、円滑に市民を救うことができるよう、ご提案頂いた「あいおいニッセイ同和損害保険株式会社」様には心より感謝申し上げます。

資料No.7 をご覧ください。

裾野市では、様々なシステムガイドを設置し、利用者の入カストレスを緩和させるサービスを提供するベンチャー企業の「テックタッチ株式会社」と連携協定を締結し、実証実験を行います。